

第45回委員会
資料第8号

第44回定例委員会議事録

1. 日時 昭和31年9月13日(木)

午後2時40分～5時

2. 出席者 正力委員長, 石川有次各委員

藤原次長, 佐々木局長, 法費局次長, 島村政
策課長, 藤汲管理課長, 荒木調査課長, 堀助
成課長, 田中, 田宮, 林, 上滝, 山崎, 松友,
川島, 小池, 伊原

3. 議題

- (1) 各国動力協定について
- (2) その他

4. 配布資料

- (1) 原子力開発利用長期基本計画(昭31.9.6内定)
- (2) 天然ウラン購入に関する件.
- (3) 昭和31年度原子力関係留学生受入交渉進捗状
況について。

公開書庫
子 録

- (4) 欧米原子力ハンドブック
- (5) 最近のイギリス原子力情勢 (原子力メモ第11号)
- (6) 対米原子力協定の比較
- (7) 動力協定に関する問題点
- (8) ウラン、トリウム資源およびその製錬について
- (9) 第43回定例委員会議事録

5. 審議決定及び報告事項

- (1) 国際原子力機関憲章採択会議について
石川委員より会議出席に当たりの考方につき発言、検討を加え諒承された。
- (2) 関西地区の原子炉の設置について
従来の経過、京大等関係者からの事情説明聴取の結果につき報告、検討を加えたが、結論に至らばかった。
- (3) 基本計画について
前回内定された資料を配布することとした。
- (4) 留学生について
新たに一名が決定された。

- (5) 補助金について
31年度の補助金の決定について報告を行い諒承された。
- (6) 天然ウランについて
米側の書簡につき報告、又購入希望の旨先方に申入れた旨報告を行い諒承された。
- (7) マニラ原子力センターについて
Fox 調査団の報告書につき通知を受け、且つ之につき会談したい旨の申入に接した旨報告、諒承された。
- (8) 協定について
米国の協定締結状態につき報告、諒承された。
- (9) 原子力ハンドブックについて
局作成の本資料につき説明諒承された。
- (10) ウラン トリウム資源及びその製錬について
資料によって説明諒承された。

6. 議事経過

(1) 国際原子力機関憲章草案採択会議について

本会議に出席する石川委員より次の発言があった。

(石川) 今度の会議では、直したいことも沢山あるが、今度はそつとしておいて、あとで又直すという風にしておいたらよいと思う。将来育ではよくなるが、今は当らず障らずにしておいて、将来盛り立てるのかよいと思う。河崎局長も同意見だ。大体35分位演説、最初の2週間は演説ばかりだ。

次いで次の議論があった。

(有沢) 燃料の供給はどうか。

(石川) つらい所だが、買うとすれば、2次、3次のチマージができれば何にもならない。最初の一基は早くやつておいた方がよいと思う。

(佐々木) 私的にそういう話を進めておいたらよい。

(石川) ドイツ大使はストラスに会い政策面で

話合つたらと言っている。

(佐々木) 国際機構ができれば、国内的にはすぐ手に入るという考が強い。茅さんでも衆議院だ。今までの三原則とは逆だ。

(石川) まだ高いか安いかわからない。日本で採るだけ採らないと-----石油と同じことになる。-----

(荒木) 機関の規約に加盟することについて、燃料と秘密情報が一番重要だ。

(石川) 来年度予算についても、ウランの開発に十分力を入れないと、手ぶらではとてもかばわない。

(2) 関西地区の原子炉の設置について

(佐々木) 今日午前、京大の件について話合つた。一基を置くか、又は動力炉までやるかによって観点が変わる。大きくすると水源なので阪大としては賛成しかねているようだ。あのまゝ放っておくと段々と大きくなる。動力炉を置くかも知

れぬということも迷定し直して、宇治とどちら
がまいかという風にして行つたらよいとの事だ。

(石川) 将来相当なものを作るといふ考はどうか。
大阪とどうも連絡してない。

(有沢) 京大も理学部は余り賛成してない。

(島村) 別のコミッティーを作るといふことにつ
いては、附置研では困るといふ話合をつけねば
ならぬ。

(佐々木) 従来 of 意見では仲々片づかない。話
一寸矛盾している。別に他の所も探し、比較す
るといふ考方でやつたらよい。阪大は宇治に反
対だ。

(法貴) 茅先生から試験動力炉のことを始めから
決めないと困るといふ事を話した。ネイミング
プールなら大体の意見はよいとの事だったか。

(佐々木) 水道の水源をから困る。

(法貴) スイミングプールなら対策を考えればま
あいいという考えだ。

(佐々木) 石川委員が留守になると、藤岡、湯川
委員では立場上困るだろう。

(島村) 一緒になつたらまいか、小さいものなら
認めるか。-----

(佐々木) どこか関西の中心を作つてやらないと
困る。

(島村) 学界、産業界でも、大阪中心にほしいと
いう点は同じ。誰か中心になる人はないか？
今京大で小さいものでも認めるとなると、却つ
てさわぐ人が多くなるだろう。

(有沢) 学術局長はこれだけだといふか一つ認め
ると、あとが困る。

(石川) 阪大でも満足してない。

(島村) 小さなものでも京大においてよいといふ
なら、もつて行き方もある。しかしそうでない
と今決めるのは困る。

(佐々木) 別動隊をやつて、データを集めるとし
たら -----

(石川) 参事会だけでもはかつたら -----

(有沢) それもよい。

(石川) 大学をいじめるといふ風に言われる。

(法貴) 将来訓練用をおくということはどうか。

(有沢) 将来はよいと思う。もう少し実験して、放射能の問題などに対する見当がついてからで、数年間は研究所を中心にやるという意見だ。

(石川) 3000万円、今年計上されているか、どうしても使わねばならぬなら測定器を買えばよい。費目は変更しなければならぬか、-----

(有沢) 動力炉を置くことを考えて敷地をえらぶ。関西の研究所の分派として考える。

(3) 基本計画について、
前回内定した計画を配布、立案関係者に送付することになった。

(4) 留学生について、
資料を説明、諒承された。

—— 3.25 正力委員長出席)

京大の件を報告

委員長より、委員会の意向を先方に伝えるよ
う発言があつた。

(5) 補助金について、
資料により説明を行い、諒承された。

(堀) 申請 93 件中 39 件が採択、大蔵省との交渉で多少の変更あり、又、原研の 1.240 億円の債務負担行為を供出したので、計算し直し、資料の数字で妥結した。

(島村) 補足すると、本年度は現金が 2 億、負担行為 2.5 億ある所が CP-5 の契約の際 1.2 億不足となつた。之を CP-5 に譲つた。従つて当初より減つた。手形をもらいそこなつたということ。時期がズレたということだ。

(堀) 大きく変つたのは、4ページの住友金属、日立、17ページの日立の三つだ。

来年度やることになつていた研究の一部をカットした。来年度予算で要求する。予算が

つけは同じになる。

— 諒承 —

(6) 天然ウランについて、

荒木調査課長より資料(2)により、次のような報告を行い、諒承された。

(荒木) 米国側よりかねて9月5日前後にドラフトの要目を届ける旨の通知があつたが、それが書簡の形で来た。

要点は、4,000kgの天然ウランを売却又は貸与するについては異存はない。日本政府の申請の目的に使われるなら、濃縮ウランの場合適用される条件で議る。後日、日本政府で炉に使うときは、ウランの使用処理について拡大された条件が適用されるだろう。

これについては、購入希望の旨通知した。従来と大して異つていない。拡大された条件という点が多少問題だ。

(7) マニラ原子力センターについて、

次のような報告が行われ諒承された。

Fox調査団が8月15日政府あて報告書を出した。

その通知を日本政府にまこし、会談したい旨申入れて来た。

次いで今秋のウエリントン会議のスケジュールを報告。

(8) 協定について、

資料(6)、(7)により、米国の協定状況につき報告、諒承された。

(9) 原子力ハンドブックについて

資料により説明、諒承された。

(10) ウラン、トリウム資源及びその精錬について、

資料により説明、諒承された。

5.00 散会